

news

 α オリゴ糖の酪酸産生菌増殖作用に脚光**ノーベル賞で注目「Treg細胞」への効果も****シクロケム**

シクロケム(東京都中央区、☎03・6262・1511)では、環状オリゴ糖の一種・ α オリゴ糖(α -シクロデキストリン)のバクテロイデス菌増殖作用を介した全身への健康効果に着目し、研究を強化している。

バクテロイデス菌は、腸内で短鎖脂肪酸の一種である酪酸を産生する働きが知られており、肥満や生活習慣病の抑制に關与することから近年は「ヤセ菌」とも呼ばれ、注目を集めている。同社の研究では、市販

の水溶性食物繊維と比べて α オリゴ糖はバクテロイデス菌の増殖作用が極めて強く、また腸内での酪酸産生量が多いことを確認しており、同社では α オリゴ糖を「スーパースーパー食物繊維」と定義し、認知拡大に取り組んでいる。

最近では、今年10月に大阪大学の坂口志文特別栄誉教授がノーベル生理学・医学賞を受賞したことで話題となった「制御性T細胞(Treg細胞)」の分化誘導作用が注目されているという。

2022年に富山県立大学が発表した研究では、マウスに α オリゴ糖のほか4種類の水溶性食物繊維を摂取させたところ、バクテロイデス菌の増殖作用、酪酸の産生量、大腸炎に対する抗炎症作用のいずれも α オリゴ糖が最も優れた効果を示したことが分かった。

Treg細胞の分化誘導作用については、酪酸の産生量が2番目に多かったイヌリンと α オリゴ糖を比較したところ、 α オリゴ糖の方が高い効果を示したことも確認さ

れている。

さらに、同社が実施したヒト臨床試験では、 α オリゴ糖の摂取によるTreg細胞の分化誘導作用を介したアトピー性皮膚炎の症状緩和効果も明らかになっている。

同社では、 α オリゴ糖のバクテロイデス菌増殖作用を介した健康機能について一層研究を強化していくと同時に、その認知拡大にも引き続き力を入れていく考え。